

第63回試験研究成果発表会_果樹（品種・栽培） 発表概要

【動画配信期間】 令和8年3月27日（金）～令和9年1月5日（火）

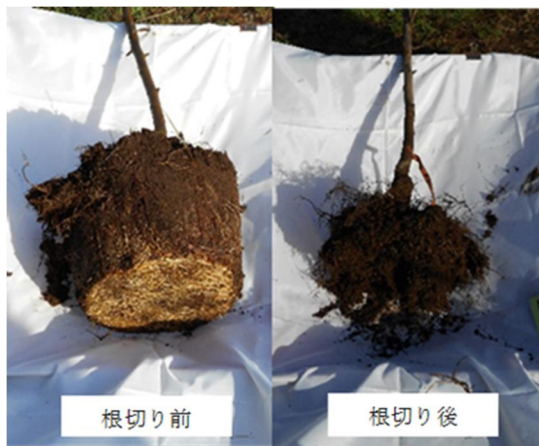
【場 所】 YouTube「千葉県公式セミナーチャンネル」

発表1 成果発表

ナシの大苗利用における移植後の生育停滞を防ぐ管理技術

果樹研究室 籠橋 駿介

千葉県のナシ園は老木化が進行しており改植が喫緊の課題となっています。改植に当たっては大苗の利用が有効と考えられますが、本圃に移植後の生育停滞（植え傷み）が問題となっています。そこで、大苗移植時の根切り処理の有無及び台木の差異等が生育に与える影響を明らかにしました。また、苗木を本圃に直接定植する場合と大苗移植する場合との樹体生育の差異についても併せて検証しましたので紹介します。



大苗定植時の根切りの様子



大苗の生育比較試験

発表2 成果発表

「秋満月」の中玉生産技術及び省力摘果技術

果樹研究室 押田 正義

ナシ「秋満月」は果重700gを超える大玉であることが特長の一つですが、大きすぎて販売しにくいといった意見も聞かれます。そこで、500g程度の中玉果実の生産に必要な摘果時の果径の基準を明らかにしました。また、「秋満月」は適度に生理落果する「自家摘果性」を有することが明らかになっています。この自家摘果性を活かし、摘果を1回のみとする省力的な着果管理技術を検討したので、併せて紹介します。



自家摘果性により1果そう2～3果になった側枝



満開後80日に1回のみ摘果した樹

発表3 成果発表

「秋満月」のみつ症対策 —被袋によるみつ症軽減と非破壊判別技術—

果樹研究室 籠橋 駿介

千葉県オリジナル品種「秋満月」では、果肉が水浸状になるみつ症の発生が問題となっています。そこで、みつ症の軽減が期待できる果実袋の種類及び被袋処理期間について明らかにしました。また、「秋満月」のみつ症の判別は目視では難しいため、みつ症を非破壊で判別できる振動硬度計の開発に取り組みました。今回はこれらの成果を紹介します。



「秋満月」のみつ症重症果の果実断面



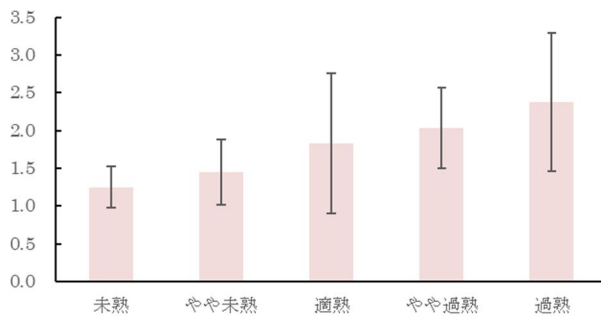
1点式振動硬度計によるみつ症判別の様子

発表4 成果発表

ニホンナシ「甘太」の収穫適期判別方法

果樹研究室 鈴木 健

ニホンナシ「甘太」(育成元:農研機構)は10月上旬収穫の晩生品種で、高糖度で良食味であることから、栽培面積が増加中です。しかし、「甘太」は収穫適期の判断が難しく、熟度が進んだ果実は果肉がスポンジ状になる症状が発生し食味が低下することが問題となっています。そこで、今回の発表では、「甘太」の成熟特性を明らかにするとともに、振動硬度計を利用した収穫適期判別方法について紹介します。



「甘太」の熟度と地色の関



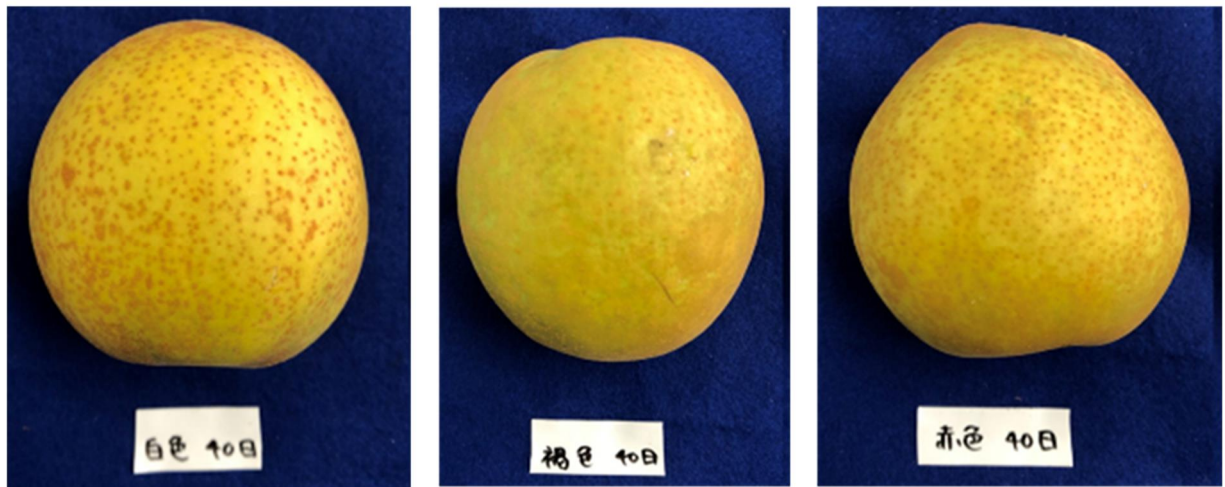
発表5 成果発表

甘太に袋掛けをすると果実はどうなる？

—果実袋被覆がニホンナシ「甘太」の果実品質に及ぼす影響—

果樹研究室 鈴木 健

ニホンナシ「甘太」(育成元:農研機構)は高糖度で良食味ですが、果実表面のさびの発生が多く外観があまり良くありません。他の品種では、袋かけを行うことでさびの発生を抑えられ、外観品質が向上することが知られています。そこで、「甘太」について、果実被覆を行うとどのような変化が起きるのかについて紹介します。



乳白袋被覆

褐色二重袋被覆

赤色袋被覆

果実袋被覆が「甘太」の果実外観に及ぼす影響

発表6 成果発表

ナシ改植時における非病原性白紋羽病菌資材の白紋羽病発病抑止効果

生物工学研究室 森島 輝

県内では、白紋羽病によるナシ改植後の生育不良が問題となっています。これまで、白紋羽病に対する新たな対策として、ナシに対する病原性を持たない非病原性白紋羽病菌を用いた試験に取り組み、その発病抑止効果やメカニズムを検討してきました。本発表では、非病原性白紋羽病菌を用いた資材について、現地圃場における長期的な効果や発病の抑制に影響している拮抗菌について調査しましたので、ご紹介します。



白紋羽病菌の菌糸



ナシ株元へ非病原性白紋羽病菌資材を施用している様子

発表7 成果発表

ナシ園で果実被害を引き起こすキクイムシ類の発生生態

病理昆虫研究室 塩田 あづさ

ドローンに搭載したマルチスペクトルカメラの空撮画像を解析することで、植物の量や活力を表す指標に使われている植生指数を算出できます。植生指数には使用する波長域や計算式によって様々ありますが、地上部生育の実測データと比較した中で、サツマイモの草勢評価に適する植生指数を明らかにしました。本技術により、地上部の生育状態を圃場レベルで広範囲に数値化することが可能となったので紹介します。



キクイムシによる果実被害



果実に食入したキクイムシ

発表8 成果発表

ビワのカメムシ防除にはドローンが有効①

～ドローンによる薬剤散布の防除効果の検証～

生産環境研究室 角田 ひかり

南房総地域特産のビワは急傾斜地で栽培されることが多く、春に果実を加害し減収をもたらす果樹カメムシ類の防除は困難でした。そこで、近年普及が進む、ドローンによる薬剤散布の防除効果を検証したところ、ビワでは果樹カメムシ類に有効であることが分かりました。薬液の付き方やカメムシの死虫率などとカメムシの生態を基に、なぜドローンが有効なのかを解説します。



ドローンによる薬剤散布



薬液付着状況調査の様子

発表9 成果発表

ビワのカメムシ防除にはドローンが有効②

～ドローン防除の作業性及び経済性～

特産果樹研究室 横山 瑛緑

ドローン防除は、傾斜地の多いビワ産地の果樹カメムシ類対策として期待されています。そこで、ドローン防除について現地試験を実施し、作業性及び経済性を明らかにしました。ドローン防除は慣行防除に比べ作業時間を35%削減でき、慣行防除と同等以上の売上を確保できることが試算されました。また、ビワ園でドローンを効率的に飛行させるため、離発着場や周辺環境の整備などの留意点が明らかになりましたので紹介します。



ドローン防除の様



慣行防除の様